

研究主題

本市の子どもの体力傾向や課題を踏まえた体力向上に結び付く特別活動、部活動等を通じた学校の特色ある取組事例の調査研究の概要

1 研究のねらい

本市では、「札幌市学校教育の重点」の一つに「健やかな身体の育成」を掲げ、平成 21 年度には「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」に基づく子どもの体力向上支援事業において、本市における平成 20 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の分析を行いました。

さらに、平成 22 年度には、札幌市研究開発事業研究課題「子どもの体力向上」において、体力向上に関わる学校としての取組について調査研究を行い、研究成果をホームページに掲載しました。

今年度の研究は、今までの研究の経過を踏まえ、実践研究会委員の勤務する小中学校において、なわ跳びの積極的な活用を図るとともに、地域や学校、児童生徒の実態に応じた特色ある体力向上に向けた取組を推進し、その具体的な実践事例を広く周知啓発することにより、各学校における子どもの体力向上に資することをねらいとしています。

2 研究の概要

平成 22 年度札幌市研究開発事業研究課題「子どもの体力向上」に係る研究成果に基づき、以下の点に考慮しながら、体力向上に向けた様々な取組を各学校において実践しました。

- ・簡単な準備や身近な用具で、どの学校でも継続的に実践できるような取組とすること。
- ・小中学校を通じて、なわ跳びの積極的な活用を図ること。
- ・小学校においては、休み時間等を活用したり、学校行事との関連を図ったりしていくこと。
- ・中学校においては、既存の運動部活動、保健体育の授業、学校行事等を工夫して実施することにより、体力向上を意識した取組としていくこと。
- ・運動できる「時間」と「空間」を創り出し、仲間の励ましなどが運動に向かう後押しとなるような取組としていくこと。

年 4 回開催した研究協議会においては、各学校の取組についての情報交流と研究協議を行うとともに、学識経験者からの助言等を参考としながら、取組内容の改善を図りました。

3 研究の成果

なわ跳びについての取組は、各種の記録カードを活用したり、一緒に取り組む仲間との関わりなどを工夫したりすることにより、小学生だけでなく中学生も意欲的に取り組むことが可能であり、日常的な体力向上の取組として価値あるものであることが確認できました。

また、小学校においては、学校行事や児童の委員会活動等との関連を図りながら、ランニングコースや球技のコートなどを設け、休み時間などに用具を貸し出すなど、適切な運動環境を提供することにより、児童が自主的に運動遊びに取り組むようになり、体力向上

に寄与することが分かりました。

中学校においては、入学前に説明会を行うなど適切に情報を提供することにより運動部活動への加入率を高めていくことや、体育的行事の内容を再検討し、行事中での運動量を確保することはもちろん、行事に向けた準備や練習において、仲間と共に継続的に運動に親しむことができるよう工夫することの重要性が確認されました。

4 今後の方向性について

平成 24 年度は、札幌市独自の体力調査の年でもあり、本市の児童生徒の体力状況を改めて分析し、その結果を各学校に周知するとともに、本研究における日常的な体力向上に向けた実践事例を各学校に広めながら、児童生徒の体力向上に努めていく必要があります。

平成 23 年度札幌市研究開発事業
研究課題「子どもの体力向上」実践研究会

| | | | |
|------|-----------|----|--------|
| 委員長 | 市立あやめ野小学校 | 校長 | 山脇 栄 |
| 副委員長 | 北海道大学 | 助教 | 厚東 芳樹 |
| 委員 | 市立宮の森小学校 | 教諭 | 山崎 稔英 |
| | 市立福住小学校 | 教諭 | 石田 愉良 |
| | 市立澄川南小学校 | 教諭 | 樺沢 聡 |
| | 市立発寒西小学校 | 教諭 | 山崎 雄太郎 |
| | 市立八軒西小学校 | 教諭 | 今野 大介 |
| | 市立伏見中学校 | 教諭 | 佐藤 孝一 |
| | 市立厚別北中学校 | 教諭 | 大崎 聡 |
| | 市立陵北中学校 | 教諭 | 大巻 太一 |